

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年7月4日

評価対象事業		評価者	中央図書館長	青木 達哉
教育-39	実施事業	図書館管理運営事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課 中央図書館
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	生涯学習	施策の方針	学習環境の整備・充実

1 事業の目的

対象	市民等
意図	図書等資料を収集、整理・保蔵して市民等の利用に供し、生活に則した教養等に資するため
効果	市民自らが文化的教養を高め、自己判断力の向上を目指すとともに、調査・研究等に活用されること

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 効果的な資料収集を図るとともに、市民ニーズに則した貸出業務、インターネット予約受付などを実施した。 図書館業務に必要な嘱託員の配置と諮問機関としての図書館協議会の運営を図った。 図書館施設の維持管理を行なった。 鎌倉市図書館ビジョン及び第3次鎌倉市図書館サービス計画を策定した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		データ区分	01年度(2019年度)当初予算		備考
	人口等の	人口	176,466人	176,308人		人口	176,436人	
	世帯数	81,150世帯	81,763世帯	世帯数	82,444世帯			
運営資源状況	事業の対象者数			事業の対象者数				
	決算値(千円)	131,053	142,332	当初予算(千円)	152,620			
	国県支出金			国県支出金				
	地方債			地方債				
	その他			その他				
	一般財源	131,053	142,332	一般財源	152,620			
事業運営	人員配置数	24.8	21.8	人員配置数	22.8			
	人件費(千円)	190,098	168,292	人件費(千円)	176,353			
	総事業費(千円)	321,151	310,624	総事業費(千円)	328,973			
	市民1人当りの経費(円)	1,820	1,762	市民1人当りの経費(円)	1,865			
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△. 負担未導入
		△-2. 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○. 協働実施済
		協働実施済の場合のパートナー ファンタスティック☆ライブラリー実行委員会 地域の市民団体

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す →	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	事業へ統合
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →				

予算規模の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	幅広い市民ニーズに応えるため、資料の収集及び各種サービスを充実させるとともに、広告収入や雑誌スポンサー制度等の周知を図り、財源の確保に努める。また、図書館振興基金の活用について検討を行っていく。
	<input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする		
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する		

総評(評価に対する考え方、根拠等)	<p>事業費に関しては、所蔵資料の古さ少なさに対する意見や要望も多く、また、本市図書館で所蔵していない資料については県内・県外図書館からの借用で対応しており、運搬料も増加していることから、削減の余地は「ない」と考える。</p> <p>関連・類似団体との統合については、公共施設再編整備計画の中で地域館は拠点校へ統合させるとなっているが、中央図書館は拠点館として機能を充実させていく必要があるため統合できないものとする。</p> <p>図書館には、平日休日を問わず幅広い年代層の利用があり、開館時間の延長を希望する利用者も少なくない。また、おはなし会や様々な行事を行うことで図書の貸出だけでなく、利用者同士が交流を図れる場所としての機能も果たされている。</p> <p>協働については、図書館行事であるファンタスティック☆ライブラリーにおいて、市内でボランティア活動を行っている団体等が実行委員会形式で運営を行い、令和元年度(2019年度)で12年目を迎える。また、玉縄図書館と腰越図書館で、地元で活動している市民団体等や地域住民と連携してイベントを実施し、地域館の活性化を図った。</p>
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成30年度(2018年度)事業実施にあつての課題(前年度未解決の事項を含む)	第3次鎌倉市図書館サービス計画の策定にあたり、今後の図書館運営のよりどころとなる鎌倉市図書館ビジョンの策定が必要である。 図書館業務の効率化とサービスの向上を図るため、休館日や開館時間の見直しを行う。	
課題解決のために行った平成30年度(2018年度)の取組	図書館ビジョンや第3次サービス計画の策定に向け市民の意見を聴取するため、利用者懇談会の開催や市民アンケート、利用者アンケート、及びパブリックコメントを実施した。 平成30年(2018年)9月から11月までの3か月間、中央図書館及び腰越図書館で月曜日休館、午後6時までの開館時間延長の試行を行った。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	休館日や開館時間変更の試行の結果は、試行案と現行どおりと半々の評価であり、結論を出すには至らなかった。令和2年度(2020年度)の会計年度任用職員制度導入と合わせて、図書館の運営体制を見直す必要がある。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	月1回の休館									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市	
他市実績	○	月2回 (総合館のみ)	×	×	○	×	×	×	×	

比較事項	宅配サービス									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市	
他市実績	○	×	○	×	○	○	×	○	×	

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	より多くの市民等に図書館を利用してもらうため、利用者のニーズに合わせたサービスの充実を図るため。
----------------------	--------------------------------------------------

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	個人貸出点数	単位	点	指標の傾向	↘	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
蔵書の充実を図り、多くの市民に図書館を利用してもらうため	目標値	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
	実績値	1,382,363	1,411,599	1,349,752	1,332,565	1,325,723	
	達成率	92.2%	94.1%	90.0%	88.8%	88.4%	

指標の内容	図書の蔵書新鮮度(新規受入点数/蔵書点数)	単位	%	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
蔵書にして数年間によく利用されることから、新しく蔵書にした資料の割合を高めることが図書館の魅力につながるため	目標値	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5
	実績値	4.0	3.6	3.8	3.5	3.9	
	達成率	88.9%	80.0%	84.4%	77.8%	86.7%	

指標の内容	来館者数(平成30年度(2018年度)よりカウント開始)	単位	人	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
図書館への来館目的は、館内閲覧、利用者用インターネットの利用など、貸出を伴わないことも多いため	目標値	-	-	-	-	850,000	860,000
	実績値	-	-	-	-	853,311	
	達成率	-	-	-	-	100.4%	

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	新たな図書館システムの導入により蔵書点検等の効率化が図られ、セルフ貸出機なども導入し、利用者の利便性を図ってはいるが、インターネットや電子書籍の普及により情報収集も多様化し、貸出数が伸びにくさに繋がっているものと思われる。 毎年若干ではあるが、資料費を増額させ、寄贈資料も活用して蔵書の更新に努めているが、蔵書冊数も増えているため、新鮮度を高められていない。 来館者数は全館でカウントを取り始めた初年度である。
-----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------